

2026 年（令和 8 年）度 事業計画書



学校法人 京都外国語大学

目 次

はじめに	1
I.学校法人京都外国語大学事業計画	2
1.基本方針	
2.重点取組	
II.京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画	4
1.大学・短期大学のビジョン	
2.学長方針	
3.事業計画	
III.京都外大西高等学校事業計画	8
1.高校のビジョン	
2.3つのポリシー	
3.方針	
4.重点取組	
IV.京都外国語専門学校事業計画	11
1.専門学校のビジョン	
2.方針	
3.重点取組	
(参考) 京都外国語大学・京都外国語短期大学 3つのポリシー 学部・課程・学科の目的	13



「はじめに」

私立大学・短期大学を取り巻く情勢は、ますます厳しい局面を迎えると予測されています。18 歳人口の本格的な減少による大学淘汰の本格化など、大学間の競争が激しくなる中、どの私立大学・短期大学でも、自律的なガバナンスの確保、経営の強化等、より強固な経営基盤に支えられた大学づくりを進めているところです。また、各私立高等学校、専門学校においても、少子化や景気動向、国の政策等の影響を考慮しつつ、生徒・学生の確保などに懸命な対策がとられています。

教育を取り巻く環境が激変する中、本学園の長所を活かした教育・研究活動を積極的に展開し、それらの特色を広く社会に発信することで、地域・社会に求められる学園像をより明確に打ち出し、本学の存在意義をさらに確立させることで、2027年度に迎える学園創立80周年さらにはその先の100周年につながるよう、学園の運営にあたります。

学校法人 京都外国語大学
京都外国語大学
京都外国語短期大学
京都外大西高等学校
京都外国語専門学校



I. 学校法人京都外国語大学事業計画

1. 基本方針

施設整備、財務体質、ガバナンスならびに人事・組織力を総合的に強化し、持続可能な学園運営体制を確立する。既存資源を最大限に活用しつつ、デジタル技術の段階的導入の支援及び組織改革を通じて、教育研究機能の質的向上を支える強固な経営基盤の構築を図る。

2. 重点取組

（１）学園施設整備マスタープランの見直し

既存の学園施設整備マスタープランを総点検し、教育研究機能の強化や学生満足度向上、維持管理コストの最適化等の観点から、整備事項の優先順位を再整理する。校舎の改築・改修・再配置を含め、現実的かつ持続可能な整備計画として再構築する。2026 年度内に、学園の将来ビジョンを具体化した「改訂版マスタープラン」を策定する。

（２）学園創立 80 周年記念事業の計画策定・実施

2027 年度に迎える学園創立 80 周年を、学園の価値を再確認し、次世代へ継承する重要な機会として位置付ける。2026 年度は一部行事のプレ実施を通じて学園全体の機運を醸成することで、周年を一過性の取組に留めず、ステークホルダーとの絆を一層深める好機とする。

（３）財務体質強化

安定的な財政基盤の確立に向け、外部資金獲得の強化と経常収支の改善を図る。2026 年度は創立 80 周年を契機とした募金募集を展開し、卒業生や企業との関係強化を加速させる。あわせて、予算管理の厳格化と資産運用の最適化を並行して進めることで、健全な財務体質を構築する。

（４）危機管理体制の強化

ガバナンス及びコンプライアンスの実効性を高め、危機管理体制の強化を図る。2025 年度は、リスク管理の基本的な考え方を中心に、基礎的なリスク管理能力を身につける研修を実施した。2026 年度はこれを踏まえ、各部署におけるリスクの兆候把握や未然防止につながる「リスク感度（察知能力）」の底上げを目的とした研修を実施し、平時からの気づきと情報共有が機能する体制づくりを推進する。

また、2025 年度に策定した「BCP（事業継続計画）第 0 版」の検証結果を踏まえ、訓練の実施と不断の見直しを通じて、実効性を高めた「BCP 第 1 版」を策定する。単なる計



画策定に留まらず、平時から運用と改善を重ね、有事の際に機能する体制づくりを進める。

（５）デジタル化・業務効率化の推進

大学・短期大学部門をはじめ各部門での生成 AI 活用の取組を支援し、業務の標準化と効率化を推進する。生成 AI を活用可能な職員の計画的育成を図るとともに、活用事例の収集・共有、横展開を促進し、業務改善の定着と組織変革につなげる。

（６）人材・組織力の強化

変化の激しい時代に柔軟かつ機動的に対応するため、持続可能な学園運営を担う人材基盤の強化に向け研修体系の整備を行う。また、内部統制の実効性向上に向けた内部監査機能の充実、地域との連携を深化させるための推進体制の整備、ならびに学園の取組を適時適切に発信する広報機能の強化等を行い、組織運営力の強化を図る。



Ⅱ. 京都外国語大学・京都外国語短期大学事業計画

1. 大学・短期大学のビジョン

（1）ミッション

大学・短期大学の建学の精神は「PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）」である。この精神に基づき、世界平和に貢献することを目的として、本学は外国語及びその背景にある国際社会と地域文化に関する教育研究を行っている。本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」で、本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことである。

この教育理念を達成するため、以下の3つの力を備えた人材を育成する。

① 京都外国語大学

1. 学問に裏付けられた実践的な複言語運用力
2. 世界平和のための社会性と対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
3. 日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

② 京都外国語短期大学

1. 確かな日本語力と実践的な英語運用力
2. 世界平和のための社会性と対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
3. 日本及び外国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

（2）目的

① 京都外国語大学

学術の中心として広く知識を授け、豊かな教養に基づく円満な人格と国際的視野とを養い、専門の外国語とその文化について深く教授研究し、国際的活動を通して社会に貢献し得る人材を育成する。

② 京都外国語大学大学院

学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、文化の進展に寄与する。

③ 京都外国語短期大学

文化の一起因ともいうべき英語を教授研究し、かつそれを根底とする専門職業に重きを置く大学教育と国際活動に必要な教養を施し、国家社会に有用なる人物を育成する。

これらの目的を達成するため、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の3つのポリシーを定め、教育研究を行っている。3つのポリシー及び各学科等の目的については、末尾13頁以降参照。

2. 学長方針

「本学の教育の強みを基軸とした持続的発展に向けて」

少子化の急激な進行や AI 進展に代表される社会・産業構造の変化、学修者本位の教育への要請の高まりなど、高等教育を取り巻く環境は今、大きく変化しています。こうした中で、本学が果たすべき役割を改めて問い直し、持続的発展に向けた実効性ある改革を着実に進めていくことが必要だと考えています。2026 年度は、これまでの取り組みの成果と課題を踏まえ、中期計画の内容の一部を見直しつつ、5 年後・10 年後を見据えた取り組みを本格化させる年度と位置付けます。

このような認識のもと、本学は「言語を通して世界の平和に貢献する人材を育成する大学」としての価値を改めて明確にし、言語教育と多文化共生教育を基盤として長年培ってきた本学ならではの教育の強みを、全学的な視点で改めて確認し、追求していきます。その上で、3つのポリシーに基づく教育課程を核とし、学生支援、キャリア支援、さらには社会連携・実装へと一貫性をもって展開することで、教育活動全体を有機的に結び付けていきます。

あわせて、内部質保証の枠組みのもとで学修成果の可視化を進め、その結果を教育改善に確実に反映させるとともに、学生の成長や教育の成果を社会に対して説明できる体制を強化します。教育の「入口」から「出口」までを見据えた質の高い教育を実現することで、本学の教育の価値と特色を学内外に適切に発信していきます。

教職員一人ひとりが当事者意識を持ち、部局や職種の垣根を越えて連携することで、変化を前向きに捉え、教育と組織の両面から進化を続ける大学・短期大学であり続けることを目指します。厳しい環境下においても社会から信頼され、必要とされる高等教育機関であるために、全学一丸となって 2026 年度の事業計画を着実に実行していきます。

3. 事業計画

【重点取組に関する計画】

A. ブランド力向上と志願者・入学者数の安定的確保

グローバル教育・語学教育の「京都の中核拠点」としてのブランドを確立し、国内外から安定的に学生を獲得する。

A-1. 募集活動の強化

- ホームページリニューアルの実施計画策定と基盤整備
- 対面広報のさらなる強化
- 高大連携の再構築に向けたプロジェクトの立上げ

A-2. 学生生活における総合的なサービスの向上

- 学生食堂の運用方法改善による学内交流の活性化
- 多様化する学生のニーズや困難に対応する包括的支援体制の再構築に向けた基盤整備

**A-3. 卒業生、社会人に対する施策検討**

- 卒業生のリスキリング施策の構築
- 卒業生の転職等に係る支援体制の構築

B. 学修成果の向上とキャリア支援の強化

「学びは社会で生きる」を実感できる教育体系を構築し、卒業後の社会的活躍につながる力を育成する。

B-1. 将来のキャリアを見据えた教育の質の向上

- 3つのポリシーの検証
- 学修成果等の点検結果を踏まえた教育改善
- AI・ICTを活用した業務・学修支援コンテンツの構築
- 次期カリキュラム案の策定
- 大学院における新カリキュラムの運営・検証と広報の強化

**B-2. 産官学・地域連携（学生の社会参加型プログラム）の充実
～実践的体験型活動の再構築～**

- 正課（PBL・フィールドワーク等）における産官学・地域連携の充実
- 正課外活動（ボランティア等）の推進に向けた基盤整備
- インターンシップ等による学生のキャリア形成支援および起業家育成のための体制構築

B-3. グローバル化に対応する施策の充実

- グローバル化の方針策定
- 海外で活躍する卒業生とのネットワークの基盤整備
- 短期・長期留学制度の充実・強化（含む奨学金整備）

C. 社会環境の変化への対応と大学経営の基盤強化

研究力・教育力を持続的に強化し、地域に貢献するため、社会・政策の変化に柔軟に対応できる大学運営体制を構築する。

C-1. 向こう 10 年を見据えた大学の組織・教員体制の検討・計画策定

- 求められる教育を実現するための教育・研究組織の再編成に向けた検討

C-2. 短期大学の方針検討・策定

- 短期大学の経営方針の策定

C-3. 個別・共同研究の活性化

- URA（リサーチ・アドミニストレーター）導入計画の策定
- 研究成果の発信強化に向けた基盤整備
- 「PD（ポストドクター）」導入計画の策定

C-4. 学内の意思決定プロセスの改善



- 教授会、執行部会議、教学マネジメントに関する委員会等の意思決定プロセスの改善計画の策定

【点検・評価の結果（重要課題）】

- 直近の認証評価の結果を踏まえた改善



Ⅲ. 京都外大西高等学校事業計画

1. 高校のビジョン

本校は、建学の精神「不撓不屈」に則り、総合的人間育成を教育の根幹とする。学問を尊び、道義を重んじ、「未来を拓く力」と「世界に向けて自らを表現できる力」を育成し、国家社会の進歩発展に寄与できる人材の養成を目的とする。

また、「強く・正しく・明るく」を校訓とし、京都外国語大学の併設校として、語学教育および国際理解教育を教育の柱に据え、広い視野と豊かな国際感覚を備えた人材の育成に努める。生徒一人ひとりが自らの可能性を見出し、「自分にしかできない価値」を創造できるよう、挑戦を後押しする教育環境の整備を推進する。

2. 3つのポリシー

<ディプロマポリシー(卒業認定の方針)>

本校は、国際社会に貢献できる人材を育成するため、共通教育目標として、①基礎的学力と主体的に学ぶ力、②国際感覚・異文化理解、③夢や適性に応じた進路選択力、④社会性・倫理性の涵養を掲げる。4コース(グローバル特進・国際文化・総合進学・体育)の特色ある教育を通じて、京都外国語大学と連携して重視する3つに力

- ・構想力：課題の発見・分析・解決策の立案
- ・実践力：主体的な行動とODCA
- ・共同・協働力・他者との協力、多文化共生の力を育成する。

卒業に必要な単位を修得し、これらの力を身につけた生徒に高等学校課程の修了を認定する。

<カリキュラム・ポリシー(教育課程の方針)>

文科省の学習指導要領に基づき、4コースそれぞれの教育目標に応じたカリキュラムを編成する。

●グローバル特進

応用学力を強化し、難関大学進学を目指す。5G(目標設定・基礎固め・成長・全体構想・やり抜く力)を重視し、進学校集・土曜予備校など学力伸長を徹底する。

●国際文化コース

外国人教員による少人数授業、イマージョン環境、探究・討論形授業により、高い英語運用能力・異国文化理解・批判的思考力を育成。ユネスコスクール認定校としての模擬国連、SDGs活動など実践的学びを重視する。

●総合進学コース

基礎学力を強化し、学業と学校活動を両立しながら大学進学を目指す。英語体験型海外研修など国際的視野を広げ、個々の進路設定を支援する。



●体育コース

アスリート育成と基礎学力育成を両立。スポーツ実技・資格取得など多面的学習を通じて、協調性・社会性・地域貢献の意識を育む。

＜アドミッション・ポリシー（求める生徒像）＞

本校は、建学の精神「不撓不屈」と校訓「強く・正しく・明るく」を理解し、京都外国語大学の理念にも共感する生徒を広く受け入れる。

求める生徒像は以下のとおり

- ・困難に挫けず努力できる自律性・挑戦心を備えた生徒
- ・自分の個性や夢を大切にし、「自分にしかできないもの」を追求したい生徒
- ・他者を尊重し、配慮を忘れず、主体性を持って行動できる生徒
- ・国際社会への関心、外国語学習・異文化理解への意欲が高い生徒
- ・学業・クラブ・探究・国際交流・地域貢献など多面的な成長を望む生徒
- ・多様な価値観を尊重し、協働的かつ主体的に行動できる協調性・共感力を持つ生徒
- ・中学校学習内容を基礎として「学びに向かう力」「知識・頭脳」「思考・判断・表現力」を備えている生徒
- ・言語を通じた理解・コミュニケーションの重要性を認識している生徒

3. 方針

「選ばれる学校へ ～信頼・持続・発展～」

少子化の進行により、学校は選抜される側ではなく「選ばれる存在」としての価値を明確に示すことが求められている。本校は「入れる学校」から「選ばれる学校」への転換を図る。

その実現に向け、財務基盤の強化、安定した入学者数の確保、適正な労務管理の徹底、進学実績の向上、部活動運営の適正化、教育環境の充実等を重点的に推進する。

2026 年度を、「量から質へ」「経験依存から組織的運営へ」「慣習から制度へ」の転換を図る節目の年度と位置付ける。学校経営の透明性を高め、「不易と改革」の理念のもと、教職員の主体性を尊重した組織運営を確立し、中長期（5～10 年）を見据えた持続可能な学校体制の構築を目指す。

4. 重点取組

（1）財務基盤の強化

持続可能な学校運営の確立を最優先課題とする。単なる経費削減ではなく、教育の質を維持・向上させながら経営効率を高める体制への転換を図る。収入構造の再検証を行い、必要に応じて見直しを検討する。また、予算執行の基準を明確化し、教職員全体でコスト意識を共有する体制を整備する。あわせて ICT 活用を推進し、業務効率化およびペーパーレス化を進めることで経費削減を実現する。財務状況の可視化を通じて、透明性と信頼性の向上を図る。



（２）安定的な入学者数の確保

安定した入学者数の確保は学校運営の基盤である。本校の教育的特色を明確化し、戦略的広報体制を構築する。入試部組織の再編により役割と責任を明確化し、塾訪問の強化や広報活動の体系化を進める。出願者数 650 名を具体的目標として掲げ、SNS 等を活用した広報戦略を展開する。募集定員についても現実的視点から検討し、教育の質を担保できる適正規模を見据えた将来構想を策定する。

（３）適正な労務管理の徹底

法令遵守は学校運営の前提である。出退勤管理の適正運用を徹底し、勤務実態を正確に把握する。1 年単位の変形労働時間制については、法令に則り適切に設計・運用する。業務命令系統を明確化し、不透明な時間外労働の解消を図る。働きやすい職場環境を整備し、教職員が専門性を最大限発揮できる体制を構築する。

（４）教育の質の向上と進学実績の強化

教育の質の向上は学校の存在価値そのものである。新カリキュラムを完成させ、2027 年度より円滑に運用できる体制を整備する。進学強化チームを本格始動させ、学年横断型の進路指導体制を構築する。高大連携の深化、第 2 外国語履修制度の具体化など、本校独自の教育的付加価値を創出する。国公立大学および難関私立大学合格者数について具体的目標を共有し、成果を明確に示せる学校づくりを推進する。

（５）部活動運営の適正化

部活動は本校の教育的特色の一つである。その意義を尊重しつつ、持続可能な運営体制を確立する。制度に基づく適正な運営を通じて、教育的効果と経営の健全性を両立させる。

（６）教育環境の充実

教育環境の整備は学校選択に直結する重要要素である。食堂リブレの大学との共用を推進し、利便性と満足度の向上を図る。大学図書館の共用制度についても検討を進め、学習環境の質的向上を実現する。旧校舎跡地の活用についても将来構想の中で検討し、中長期的視点に立った施設整備計画を策定する。生徒が誇りを持てる環境づくりを通じて、本校のブランド価値向上を目指す。



Ⅳ. 京都外国語専門学校事業計画

1. 専門学校のビジョン

本校は1998年より実践的で堪能な外国語能力の育成を図り、その能力を基盤として学校法人京都外国語大学の建学の精神「言語を通して世界の平和を」のもと、多くの学生を送り出してきた。しかし、少子化による大学全入時代の影響を受け、専門学校への進学率は年々減少している。このような現状に鑑みながら本校も「語学の専門学校から語学を通じて社会の課題に対応する専門学校」へと変化し、広く海外文化や国際社会人としての豊かな人間性を養い幅広い国際的感覚を身につけた人材を育成していく。

2. 方針

- (1) 専門学校の業務の「変革」「改革」「改善」を目標として教職員のチームワークを強化し様々な問題に対して改善を行い、これまでの基盤は残しつつもプロセスや組織を建設な考えをもって変えていく。
- (2) 専門学校全体の課題を理解し、教員と職員互いの業務内容を共有し、協力体制を構築する。
- (3) 専門学校の経営基盤である「入学者の増加」「退学者を防ぐ」「教育力強化」「学生の満足度向上」「高い就職力」を恒常的に追求し整える。
- (4) 専門学校の本来のビジョンを再検証し、その目的に即した方針、ポリシーを確立し、教育課程を整える。志願者が減少していることから、教職員全体で戦略を立てて広報活動を強化し志願者増に取り組む。
- (5) 充実したキャンパスライフや教学内容、指導内容等、学生にとって魅力的な専門学校の実情を構築する。

3. 重点取組

- (1) 入学者確保に向けた学生募集戦略
 - ①パンフレット・ホームページはリニューアルし、高校生の学校選びの早期化・長期化に対応して夏休みまでのオープンキャンパス集客に繋げるため、ターゲットに合わせた「見せ方」で情報を発信する。
 - ②高校生の学年・志望分野・偏差値等目的に応じた広報を行い入学に繋げる。
 - ③大阪府・京都府の公立高校には日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜を実施している高校がある。これらの高校にアプローチをかけて日本語コミュニケーション学科(留学生クラス)への入学者獲得に結びつける。
 - ④専門学校への進学実績のあるエリアを分析し、効果的な高校訪問を実施する。



（２）ポリシーの検証

3つのポリシーを策定しているが、ディプロマポリシーを起点として一貫しているか検証する。

（３）学則の改正に伴う各規程の整備

学則については、現状と異なるところが多く見受けられたので改正を行った。
これにより関連する諸規程への影響もあることから、規程の改正及び新たな規程の作成を行う。

（４）卒業後の進路

- ①学生ひとり一人の進路に向けて、教職員が編入先大学と企業の情報収集、分析を行い計画的、組織的な指導を行う。
- ②大学のキャリア支援部と連携し、学生がインターンシップ及び業界研究、企業研究ができる機会を整える。
- ③就職先の業界と企業に偏りがあるため、選択の幅を広げるように新規就職先を開拓する。
- ④外国人留学生が国内で就職できるよう「日本の就職活動の仕組み」「業界研究や企業研究の仕方」などの就職活動の特徴を理解するオリエンテーションを行い、日本企業で働くためのビジネスマナーも身につける指導をする。

（５）教職員の研修

- ①専門学校の教育活動の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員の必要な知識と技術を習得し資質を向上させる。
- ②学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するため研修を行う。

（６）システムの移行

教育業務及び学籍管理業務を円滑にするため、現行の「KICS」から「GAKUEN」へ移行し2026年10月より運用を開始する。



3 つのポリシー

京都外国語大学
外国語学部
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
<p>外国語学部は専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。</p> <p>その実現のために、「高度な語学力」、「社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力」、「京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力」の 3 つのミッションを修得することにより、下記に示すとおり、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を育成することを教育目標にしている。</p> <p>① 構想するために必要な力 私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。</p> <p>② 実践するために必要な力 自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。</p> <p>③ 共同するために必要な力 立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができる。</p>
カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）
<p>外国語学部では、卒業認定・学位授与のために、学部導入科目及び専門科目に加えて 9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分けている。</p> <p>【教育内容（英米語学科 ダイヤモンドコースを除く）】</p> <p>① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。</p> <p>② 専攻語教育の必修科目において専攻言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を総合的に修得すべく科目を配置する。外部の語学検定試験や学科総合試験によって、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策やキャリアに関連する専攻語の 4 技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。（日本語学科を除く）</p> <p>③ 専攻言語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域が抱える諸問題に問題意識を持って取り組む能力を育む。</p> <p>④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にする。</p> <p>⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組む計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成する。</p> <p>【教育方法（英米語学科 ダイヤモンドコースを除く）】</p> <p>① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。</p>



② 必修科目における専攻語の修得にあたっては、少人数制クラス編成を維持する。

③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学修成果】

① 語学力の育成

大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。

② 専攻語圏に関する専門知識と多文化共生力

専攻語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、京都の学びを通じて自らの社会と文化を知り、異文化に対する理解を深めさせ、寛容性を備えた人材を育成する。

③ 世界が抱える諸問題の理解

専攻語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価（英米語学科 ダイヤモンドコースを除く）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価する。

① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績

② 語学の到達度を測る資格試験のスコア（日本語学科を除く）

③ ゼミ担当者の指導の下に作成した卒業論文あるいは卒業研究

【教育内容（英米語学科 ダイヤモンドコース）】

① 学修の基礎となる学部導入科目においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。

② 2年次からの英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の高いレベルの 4 技能を総合的に修得すべく科目を配置する。英語圏の専門留学に必要な IELTS 又は TOEFL のスコアのレベルに到達することができる。

③ 2年次からの専門科目では、実社会で求められる社会科学の素養を修得するための必修科目として、「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を、英語又は日本語を教授言語として学ぶ。これらの素養は、専門留学を円滑かつ効果的に修了するために必須となる。

④ 「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質や精神を英語で説明できるようにし、京都と世界をつなぐネットワークの一員となる素養を磨く。

⑤ 卒業後の進路を見据え、地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格等を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成する。

【教育方法（英米語学科 ダイヤモンドコース）】

① 自律学習を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。

② 2年次からの必修科目における英語の修得にあたっては、留学に必要な英語力獲得を目指す高度かつ実践的な英語教育を徹底する。また、卒業後の進路を見据え、実社会で必要とされる社会科学の「国際関係学」、「経済学」、「経営学」、「データサイエンス」、「会計学」を修得する。また、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信する。

③ 「京都学」では、「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質や精神を英語で説明できるようにする。

④ 3年次秋学期から1年間、海外協定校（英語圏）への専門留学を必須とする。

⑤ 留学前後では、産・官・学それぞれの現場で活躍する講師を迎え、国際社会の中で求められる日本のあり方を俯瞰する姿勢を確立する。その上で京都と世界をつなぐネットワークの一員という認識の下、それぞれのキャリアで求められる素養を自律的に考え続ける能力を身につける。

⑥ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【評価（英米語学科 ダイヤモンドコース）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価する。

各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績



各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は
https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_mission.html
 に掲載。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会で十分に通用する実践的な外国語運用力を身につけるとともに、専攻語圏及び自国の文化・歴史・政治・経済などに関する専門知識、そして、外国語運用力を活かすための幅広い知識と豊かな教養を身につけ、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において「言語を通して世界の平和を」を具現化できる人
- ② 実践的な外国語運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 京都を中心とした自国の社会と文化や諸外国の社会と文化に興味や関心を持っている人
- ④ 多様な文化間のマネジメントができる人

京都外国語大学

国際貢献学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

国際貢献学部は、社会科学の理論と実践の学修を通して、多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成することを目的としている。

その実現のために、①社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力、②社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力、③京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力の 3 つのミッションを修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる素地を持った人材を育成することを教育目標としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

国際貢献学部では、卒業認定・学位授与のために、学部基幹科目及び専門科目に加えて 9 領域からなる全学共通科目など必要とする科目を体系的に編成している。

【教育内容（グローバルスタディーズ学科）】

- ① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する人類課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎及び「コミュニティエンゲージメント（地域社会との関わり）」を修得する。
- ② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得する。選択科目では、卒業後の進路を見据えた 3 つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得に努める。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信する。
- ③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養う。



- ④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができる。

【教育方法（グローバルスタディーズ学科）】

- ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
② 多文化環境の下で学び、複文化主義を体現したコミュニケーション力を身につけるため、専門科目の授業はすべて英語で行う。
③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学修成果（グローバルスタディーズ学科）】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。
② 問題発見力・解決力
グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と科学的洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができる。
③ 多文化共生実現力
複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができる。
④ 世界の平和を脅かす新しい諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用
経済学、経営学、国際関係学といった社会科学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができる。

【評価（グローバルスタディーズ学科）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
② ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

【教育内容（グローバル観光学科）】

- ① 学部基幹科目では、本学の建学の精神に沿う「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する人類課題と、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を修得する。
② 専門科目の必修科目では、持続可能な「PAX MUNDI（世界の平和）」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得する。展開科目では、学際的な観光学の幅広い素養を育みつつ、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを可能とする。選択科目では、世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について科学的に学ぶことができる。ゼミナール科目では、「PAX MUNDI（世界の平和）」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信する。
③ グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義に基づく多様性を養う。
④ 教養教育科目では、社会人として求められる実践的な教養教育をめざすとともに、広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることができる。

【教育方法（グローバル観光学科）】

- ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
② 「PAX MUNDI（世界の平和）」を支える多文化共生のための観光に対して、科学としての観光学の視点からの教育を行う。また、京都全体をキャンパスとすることで、複文化主義の基盤となる日本を正しく理解するための教育を行う。
③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学修成果（グローバル観光学科）】

- ① 主体的・自律的に課題に取り組む力
自らの目標を明確に持ち、自律的に学修を推進することができる。
② 問題発見力・解決力



グローバル社会の急速な変化の中において、社会科学の視点から観光に関わる諸問題を発見し、その解決のために長期的及び俯瞰的な視野と洞察に基づいて社会や組織にポジティブな変化をもたらす意思決定と行動をすることができる。

③ 多文化共生実現力

複文化主義を体現したコミュニケーション能力を駆使し、自分と異なるものの見方をする他者との交流・対話を積み重ねることにより、グローバル及びローカルな社会や組織、コミュニティに貢献することができる。

④ 世界の平和を支えるための観光をめぐる諸問題の解決策に関する科学的素養・デジタル技術の活用力
経済学、経営学、社会学など社会科学を基盤とする学際的な観光学の専門的知識及び最新のデジタル技術を活用し、課題を解決することができる。

【評価（グローバルスタディーズ学科）】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下の通りに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② ゼミ担当者の指導の下に作成した成果報告

各学科の【教育内容】【教育方法】【学習成果】【評価】は
https://www.kufs.ac.jp/about/kufs/unv_ge_mission.html
に掲載。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、国際社会が直面する諸問題の解決に関心を持ち、世界標準の社会科学の理論と実践、デジタル技術、外国語運用力、そして、それらを活かすための幅広い教養を身につけ、多文化が共生する持続可能な「世界の平和」の実現に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

グローバルスタディーズ学科

【求める学生像】

- ① 持続可能な「世界の平和」を科学の立場から具現化できる人
- ② 京都のみならず、世界各地の多様性を体現し、国際的な多文化共生に対する学びの意欲を持つ人
- ③ 英語をはじめとする外国語の高い能力を有し、さらにその能力の向上をめざす人
- ④ 何事にも主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人
- ⑤ 大規模な肯定的変化を創造する能力を持ち、自らを「チェンジメーカー」とみなす人

グローバル観光学科

【求める学生像】

- ① 持続可能な「世界の平和」を支える観光という活動を、科学の立場から具現化できる人
- ② 京都が体現する多様性から、多文化との共生を学ぶ意欲のある人
- ③ 観光をとおして、コミュニティが直面する課題への科学的かつ実践的な解決策を立案することに興味や関心を持っている人
- ④ 何事にも主体的に取り組み、考え、判断し、行動しようとする人

京都外国語大学

大学院外国語研究科

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみなら



ず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

外国語学研究科は、言語文化と言語教育の専門分野に関する研究コース（領域）を有することを活かし、専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としている。

博士前期課程は、言語コミュニケーションに重点を置いた言語・文化・観光の学際的、総合的研究、並びにその応用としての言語教育・学習方法論・観光文化の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求める。

【求める学生像】

博士前期課程

- ① グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
- ② 教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
- ③ 言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

博士後期課程

- ① 国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
- ② 従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

京都外国語短期大学

キャリア英語科

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

キャリア英語科は英語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的としている。

その実現のために、語学力に加えて、下記に示す能力を修得し、世界が地球規模で抱える諸問題に向き合い、共同して解決を模索し、問題を解決に導くことができる人材を養成することを教育目標としている。

① 構想するために必要な力

私たちが直面している問題を発見し、解決方法を提案する（問題発見力・解決力）にあたり、深い思考力や的確な判断力を養い（思考力・判断力）、創造性あふれる企画をまとめる（創造力・企画力）ことができる。

② 実践するために必要な力

自ら提案をまとめ（主体的に取り組む力）、必要な情報を取捨選択して分析し（情報収集力・分析力）、計画的に実行に移す（計画力・実行力）ことができる。



③ 共同するために必要な力

立案した企画を効果的に発表し（プレゼンテーション力）、その重要性を相手に伝え（コミュニケーション力）、ルーツの異なる他者とともに実現していく（多文化共生力）ことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

キャリア英語科では、卒業認定・学位授与のために、総合科目及び専門科目に加えて、教養科目など必要とする科目を体系的に編成している。

【教育内容】

- ① 学修の基礎となる総合教育においては、本学オリジナルの学修内容を盛り込んだ「基礎ゼミナール」「言語と平和」を置く。短期大学におけるレポート作成に必要な技能に加え、自分の考えを第三者の意見を取り入れながらまとめ、発表するプレゼンテーション力を育成するとともに、建学の精神を理解するための初年次教育を行う。
- ② 英語教育の必修科目において英語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能を総合的に修得すべく科目を配置する。定期的に外部試験を受験し、語学力の習熟度を測る。また、資格試験対策や 4 技能をさらに伸ばす応用科目を配置し、習熟度に応じて運用能力を育成する。
- ③ 英語が用いられている地域及び自国の歴史、文化、社会、政治、経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を育む。
- ④ 複言語運用能力を育成し、多文化理解を深め、複文化的な視点を大切にする。
- ⑤ 地球規模の課題に取り組むための幅広い教養や目的に応じた資格を身につけ、実社会に対応できるスキルの獲得を目的とした科目を配置し、問題解決のための解決案や企画を構想する力、主体的に取り組み計画的に実践する力、自らの考えを発信して他者と共同するための力、目標を達成する力を育成する。「Graduation Project II」では身につけた内容を英語で発表し、意見を交換する機会を持つ。

【教育方法】

- ① 自律学修を達成し、学修成果の定着を図るため、アクティブラーニングを効果的に取り入れる。
- ② 必修科目における英語の修得にあたっては、習熟度に応じて学びを進めるため、少人数制クラス編成を維持する。
- ③ 授業アンケートを実施し、フィードバックを行う。

【学習成果】

- ① 語学力の育成
大学生としてふさわしい日本語の文章作成能力を備え、専攻する言語の学びを通じて、世界の人々との円滑なコミュニケーション力を身につけることができる。
- ② 英語圏に関する専門知識と多文化共生力
英語圏についての専門知識を獲得し、その地域の社会と文化に精通するとともに、自らの社会と文化を知り、世界に向けて発信することができる。
- ③ 世界が抱える諸問題の理解
英語圏が抱える諸問題に関心を持ち、公平な判断力のもとに、問題解決に向けて活動することができる。

【評価】

卒業認定と学位授与の方針に従い、学生の学修状況を以下のとおりに評価する。

- ① 各科目のシラバスに定めた能力を評価した成績
- ② 語学の到達度を測る資格試験のスコア

アドミッション・ポリシー（入学者受入に関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、キャリアを形成する上で十分な英語コミュニケーション力を修得して、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を求める。

【求める学生像】

- ① グローバル化する社会において、言語を通して世界の平和に貢献しようとする人
- ② 英語の実践的な運用力の修得に意欲を持っている人
- ③ 自国を含め諸外国の社会と文化に興味や関心を持っている人



- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">④ 多様な文化間のマネジメントに興味や関心を持っている人⑤ 学力を活かして 4 年制大学に編入学を望む人⑥ 英語を学ぶ上で必要な適性と基礎学力を有する人 |
|--|



【京都外国語大学 学部学科の目的】

外国語学部	
専攻する外国語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。	
英米語学科	<p>専攻語として英語の確かな運用力を備え、英語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。</p> <p>【ダイヤモンドコース】</p> <p>実社会が求める、専攻語として英語の高度な運用力と社会科学の素養を備えた「京都」の精神の継承者として日本と世界をつなぐ存在となり、世界が直面する諸課題に対して、学問に裏付けられた解決策を自律的に立案し、他者と共同して社会実装を達成する力を備えた人材を育成することを目的とする。</p>
スペイン語学科	専攻語としてスペイン語の確かな運用力を備え、スペイン語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
フランス語学科	専攻語としてフランス語の確かな運用力を備え、フランス語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ドイツ語学科	専攻語としてドイツ語の確かな運用力を備え、ドイツ語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
ブラジルポルトガル語学科	専攻語としてポルトガル語の確かな運用力を備え、ポルトガル語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
中国語学科	専攻語として中国語の確かな運用力を備え、中国語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
日本語学科	専攻語として日本語の確かな運用力及び日本国内外で日本語を教授する能力を備え、日本社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発信・伝達する力を備え



		た国語教師、日本語教師、日本語の専門家など幅広い人材を育成することを目的とする。
	イタリア語学科	専攻語としてイタリア語の確かな運用力を備え、イタリア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
	ロシア語学科	専攻語としてロシア語の確かな運用力を備え、ロシア語話者によって育まれた社会と文化の諸事象に関する専門的知識を身につけながら、問題意識を持って課題に取り組み、的確な分析を行い、その結果を他者と共有すべく発表する力を備えた人材を育成することを目的とする。
国際貢献学部		
社会科学の理論と実践の学修を通して、多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい高い見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成することを目的とする。		
	グローバルスタディーズ学科	地球規模・人類共通の課題解決に貢献し、世界の平和に貢献する新たな価値を創造する人材を育成することを目的とする。
	グローバル観光学科	世界の平和に貢献する、多文化共生のための活動としての観光という現象の光と影の側面を、社会科学の視点からとらえ、様々なコミュニティが直面する課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

【京都外国語大学大学院 外国語学研究科 課程の目的】

前期課程		
広い視野に立って精深な学識を授け、言語文化及び実践言語教育の専門分野の研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的とする。		
	言語文化コース	英米、ヨーロッパ・ユーラシア・ラテンアメリカ、東アジア、観光文化研究を軸にした言語・文化・観光の専門的知識や、国際社会に貢献できる専門的能力を修得することを目的とする。
	実践言語教育コース	創造的でかつ柔軟な対応力を備えた英語教育または日本語教育のスペシャリストとしての能力を修得することを目的とする。
後期課程		
言語文化及び言語教育の専門分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を兼ね備えた人材の育成を目的とする。		
	言語文化領域	最新の学術研究の探求を通じた、言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力を修得することを目的とする。
	言語教育領域	英語教育及び日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力を修得することを目的とする。



【京都外国語短期大学 学科の目的】

キャリア英語科

キャリア英語科は英語の学修を通して、高度な語学力、地域や文化についての専門的知識及び国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、各自のキャリア形成を通して世界の平和に貢献する人材を育成することを目的とする。